

日本風景街道大学 宮崎本校 報告

奥入瀬溪流プロジェクト 報告

2023.9.8

筑波大学名誉教授・学長特別補佐
日本風景街道コミュニティ 代表理事
石 田 東 生



地質・地形・植生・水流の織りなす奇跡的な環境

76万年前 八甲田山の大噴火 火山噴出物が基礎的な地質・地形を形成

1.5万年前 十和田カルデラの大崩壊と巨大土石流(30万m³/秒)による奥入瀬溪流の誕生

現在に至るまで、十和田湖、周辺の大地形が安定的な水流、環境をもたらす

極相林がすぐそこに

アクセス抜群 特別保護地域を国道103号が貫通 アクセスは良いが、同時に大きな課題

交通渋滞、環境への悪影響、通過型の観光地化(宿泊しない)

課題解決のために青撫山トンネル(全長8km)を国が権限代行で建設中

併せて、現道の活用と地域再生を目指して、国土交通省青森河川国道事務所と青森県県土整備部が連携して、

「奥入瀬溪流利活用検討会(委員長:石田東生)」を設置 2013

奥入瀬の魅力

- 奥入瀬溪流は**日本屈指の景勝地**として、国立公園に指定。さらに、**特別名勝及び天然記念物にも指定**
- 溪流と並行して車道や遊歩道が整備されており、四季を通じて**気軽に自然を楽しむことが魅力**
- 日本蘚苔類学会において「日本の貴重なコケの森」に認定
- 溪流のせせらぎや鳥のさえずりなど、“音”も魅力の一つで、環境省の「残したい日本の音風景100選」にも選ばれ、目だけでなく耳でも楽しめるのも魅力



問題

- 奥入瀬溪流区間の約14kmは**国立公園の特別保護地区を通過する国道**
- 観光入り込み客数は**年間約200万人**で、特に10月の紅葉シーズンには**一ヶ月あたり39万人の観光客が大型バスやマイカーを利用して大渋滞が発生**



▲10月平日・休日の比較(R1)



▲渋滞の様子



230904撮影

核心部への入り口

駐車場、トイレ、簡単な説明

よく見る行動パターン

駐車して(観光バスから降りて)、トイレに行って、短時間、周辺を散策して、溪流をみて戻る
ピーク時には駐車待ち、バスの客扱いもあって、大混雑・大渋滞

結果的に通過型・短時間滞在型に

宿泊者激減(ピークの70%減)
地形・地質・水流・植生が織りなす自然の奇跡を知り、理解するには不十分
リピータも少なく、地域経済の活性化にも貢献できず
何とかしたい!!

奥入瀬溪流における取組



権限代行

トンネルだけでなく現道の改変にも関与

県と国交省の強力な連携

ただ道路部隊中心で、環境・観光・文教部局との連携は限定的期間限定(1週間)の取り組みで、継続性・持続可能性が弱い



方向性としての「奥入瀬ビジョン」

環境保全
観光振興
交通システム

奥入瀬ビジョン 概要



奥入瀬（青楓山）バイパス開通後の姿

- 青楓山B P開通後は、**奥入瀬渓流区間の車両乗り入れを制限**し、「自然環境の保全」と「観光利用（良好なエコツーリズム環境の創出）」の両立を図る
- 天然の**自然博物館**での**学び**の地
- オールシーズン滞在型観光**の推進



バイパス開通後のイメージ（一例）

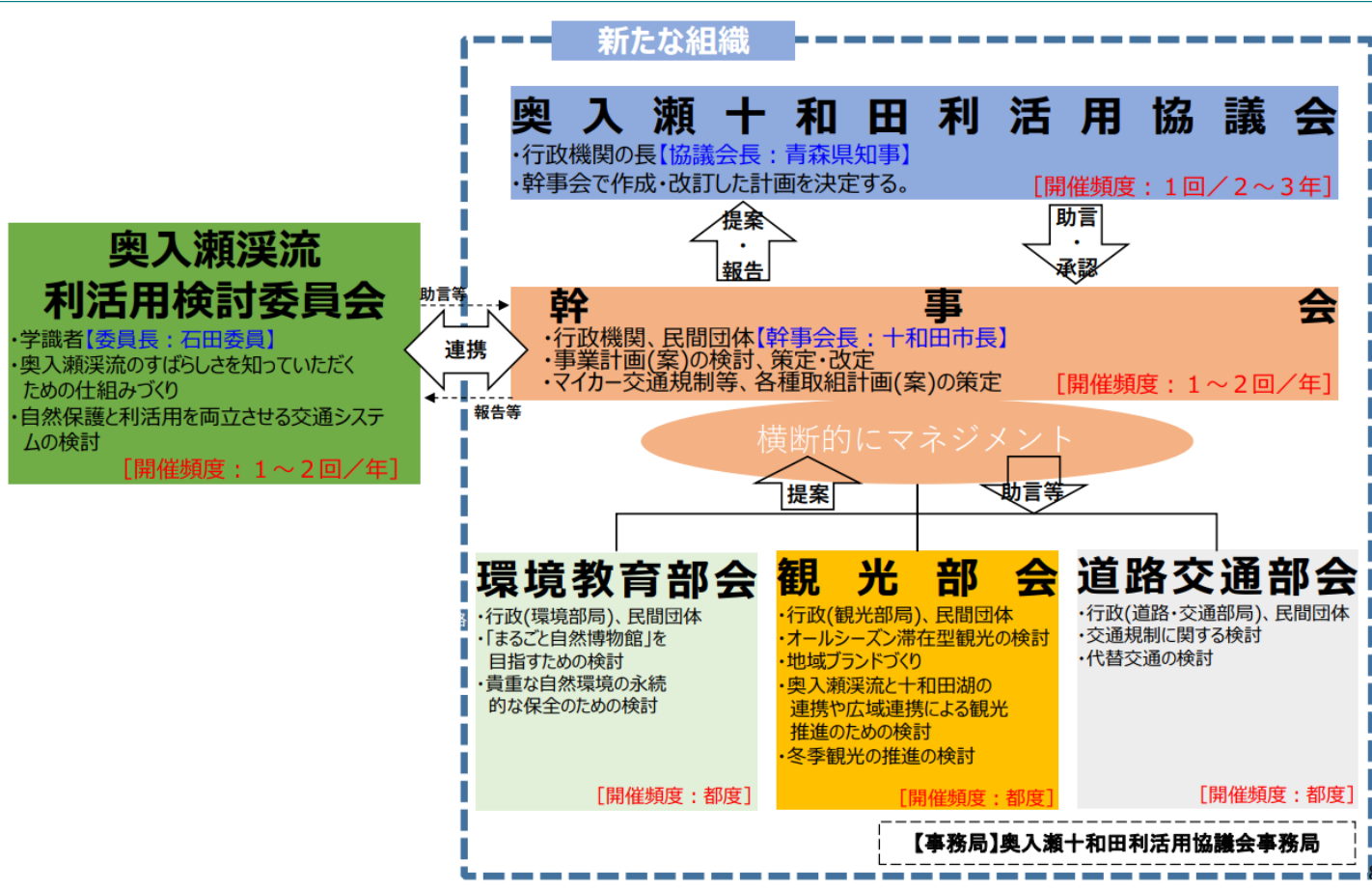
奥入瀬の丸ごと自然博物館化

奥入瀬渓流核心部の通行規制
モビリティサービスの確保
真に楽しめるガイド

リピーター・宿泊者増加
雇用確保 ガイド、観光関連
地域の元気化 誇り・愛着・教育

年中無休で楽しんでもらう工夫

新たな体制構築 奥入瀬十和田利活用協議会



協議会

会長 青森県知事

メンバー

十和田市長、七戸町長

環境省 東北地方環境事務所長

国土交通省 東北地方整備局長、東北運輸局長

青森県 環境生活部長、県土整備部長、

観光国際局長、上北地域県民局長

奥入瀬丸ごと自然博物館に向けての課題解決

入域料徴収(地域自然資源法の活用)

交通規制とモビリティサービスの実現

価値の発信

山本巧東北地方整備局長

道路政策・整備の新しい形の一つ

奥入瀬・十和田湖地域の新たなステージ ～まるごと自然博物館の実現～

「奥入瀬ビジョン」(平成30年6月) 骨子

国道103号 奥入瀬(青樺山)バイパス完成後の持続可能な観光を目指すためには、奥入瀬・十和田湖地域の高付加価値化や、これまでの「通過型」の観光から、歩く奥入瀬といった「オールシーズン滞在型」の観光へ転換していく必要がある。

「奥入瀬ビジョン」の実現に向けた議論を深化・加速させ、持続可能な地域経済を構築するため、複数ある関係組織の集約化・合理化を図り、官民一体による新たな体制を構築すること、また、以下の3つの視点が網羅された事業計画を策定し、実施段階へと移行していくことを委員会として提言します。

✓ 人と自然の共存・共生

奥入瀬ビジョンで示す地域の目指す姿「人と自然の共存・共生」を実現するため、環境評価指標等を設定し、取組の進捗を管理していく必要があります。

✓ まるごと自然博物館の実現

SDGsの視点に基づき誰でも楽しめる奥入瀬・十和田湖地域を目指すことが重要です。奥入瀬のすばらしい自然環境を保全し、その魅力を最大限体感していただくため、モビリティサービスの導入などによる、入域料等の議論を含む持続可能な「まるごと自然博物館」を目指す必要があります。

✓ 地域が潤う滞在型観光の推進

奥入瀬・十和田湖地域本来の魅力を、ゆっくり満喫してもらえるような、地域が潤うオールシーズン滞在型観光が必要です。

令和5年9月4日

奥入瀬溪流利活用検討委員会
委員長 石田東生



宮下宗一郎青森県知事に 提言書を手交



奥入瀬溪流の自然環境保護と観光利用との両立を図る基本方針「奥入瀬ビジョン」推進に向け、国、県、十和田市、七戸町や民間団体など官民一体の新組織「奥入瀬十和田利活用協議会」(会長・宮下宗一郎知事)が4日、発足した。整備中の国道103号奥入瀬(青樺山)バイパス完成後、溪流沿いを走る国道102号の通年交通規制を見据え、より魅力的な地域づくりや地域経済の活性化を図る。

十和田市役所で開いた初会合では、2018年に同ビジョンを策定した奥入瀬溪流利活用検討委員会の石田東生委員長が「奥入瀬・十和田湖地域の新たなステージ」

ここに来られて、うれしい
ベネチア映画祭
濱口監督が会見
【ベネチア共同】イタリ
アで開催中の第80回ベネチ
ア国際映画祭で4日、最高
記者会見し「ここに来られて、うれしく思う」と喜びを語った。
「悪は」は、音楽家の石橋英子さんからライブパフォーマンス用の映像制作